

平成 20 年度第 1 回登録販売者試験問題 前半

第 1 章 医薬品に共通する特性と基本的な知識

第 3 章 主な医薬品とその作用

受験番号



第1章 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問1

一般用医薬品に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 一般用医薬品の人体に及ぼす作用は、すべて解明されている。
- 2 一般用医薬品は、注意して適正に使用していれば、重篤な副作用が生じることはない。
- 3 一般用医薬品は、市販後にその有効性、安全性等の確認が行われることはない。
- 4 一般用医薬品は、一般の生活者が自ら選択し、使用するものである。

問2

独立行政法人医薬品医療機器総合機構法第4条第6項で規定される医薬品の副作用に関する定義について、()の中に入るべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、2箇所の(a)内には、どちらも同じ字句が入る。

この法律において「医薬品の副作用」とは、(a)が適正な使用目的に従い(b)された場合においてもその(a)により人に発現する有害な反応をいう。

	a	b
1	すべての医薬品	過剰に使用
2	許可医薬品	過剰に使用
3	一般用医薬品	長期間使用
4	許可医薬品	適正に使用
5	一般用医薬品	適正に使用

問3

医薬品に対するアレルギーに関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 基本的に薬理作用がない添加物も、アレルギーを引き起こす原因物質（アレルゲン）になりうる。
- b アレルギーには、体質的・遺伝的な要素はない。
- c アレルギーは、内服薬だけで発生するものであり、外用薬で引き起こされることはない。
- d 普段は医薬品にアレルギーを起こしたことがない人でも、病気等に対する抵抗力が低下している状態などの場合には、医薬品がアレルゲンになりやすく、思わぬアレルギーを生じることがある。

- 1 (a, b) 2 (b, c) 3 (c, d) 4 (a, d)

問4

一般用医薬品の販売等に従事する専門家が一般用医薬品を販売した際の対応に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 購入者から副作用の発生の経過を十分に聴いて、その後の適切な医薬品の選択に資する情報の提供を行った。
- b 医療用医薬品と一般用医薬品を併用している購入者から医薬品の副作用の自覚症状があるとの訴えがあったので、医療用医薬品の服用を止めるよう伝えた。
- c 一般用医薬品の副作用は、直ちに明確な自覚症状として現れないこともあるので、継続して使用する場合は、特段の異常が感じられなくても定期的に検診を受けるよう伝えた。
- d 購入者に対し、一般用医薬品の使用による副作用と疑われる症状について医療機関の受診を勧奨する際は、その添付文書等を持参して見せるよう説明した。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 3 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 正 | 正 | 正 | 正 |

問5

医薬品の不適正な使用と有害事象に関する記述について、()の中に入れるべき正しい字句はどれか。なお、()内はすべて同じ字句が入る。

医薬品を本来の目的以外の意図で、定められた用量を意図的に超えて服用したり、みだりに他の医薬品や酒類等と一緒に摂取するといった乱用がなされ、()を生じることがある。

()とは、ある薬物の精神的な作用を体験するために、その薬物を連続的、あるいは周期的に摂取することへの強迫(欲求)を常に伴っている行動等によって特徴づけられる精神的・身体的な状態をいう。

- | | | | | | |
|---|------|---|---------------------|---|------|
| 1 | 薬物耐性 | 2 | ^{そうつ} 躁鬱症状 | 3 | 薬物依存 |
| 4 | 健忘症 | 5 | 離脱症状 | | |

問6

医薬品の相互作用に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 複数の医薬品を併用した場合、医薬品の作用が増強することはあるが、減弱することはない。
- b 他の医薬品との相互作用は、異なる薬効の医薬品を服用した場合には起こらない。
- c 相互作用には、医薬品が吸収、代謝(体内で化学的に変化すること)、分布又は排泄される過程で起こるものと、医薬品が薬理作用をもたらす部位において起こるものがある。
- d 相互作用を回避するには、ある医薬品を使用している期間やその前後を通じて、その医薬品との相互作用を生じるおそれのある医薬品等の服用を控えなければならないのが通常である。

- 1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、d)

問7

医薬品と食品と一緒に摂取すると相互作用を生じることがある。

次の1から5で示される食品のうち、貧血用薬（鉄製剤）と食品中のタンニン酸が反応して鉄の吸収が悪くなることがあるため、服用前後は摂取を控えることとされているものはどれか。

- 1 コーヒー 2 牛乳 3 レモン 4 卵 5 豆腐

問8

医薬品と他の医薬品や食品との相互作用、飲み合わせに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 食品との相互作用は、専ら飲み薬（内服薬）の使用に際して注意を要する。
- b 医薬品を服用後、代謝によって産生する物質（代謝産物）に薬効があるものはない。
- c カフェインやビタミンAを含む医薬品と、それらの成分を含む食品と一緒に服用しても、過剰摂取となることはない。
- d 生薬成分を含むが、食品として流通できるものについては、生薬成分が配合された医薬品の効き目や副作用を増強させることはない。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	誤	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

問9

医薬品とアルコールとの相互作用に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 酒類（アルコール）をよく摂取する者は、肝臓の代謝機能が弱まっていることが多いため、薬物の代謝がされにくく、体内からの医薬品の消失が遅くなり副作用が現れやすくなる。
- 2 生薬成分のみからなる鎮静薬や漢方処方製剤については、服用に際し、飲酒を積極的に行うこととされているが、アルコールが睡眠の質を向上させ、催眠鎮静薬の効果を高めるためである。
- 3 かぜに対する民間療法としてしばしば酒類（アルコール）の摂取がなされることがあるが、アルコールが肝臓の機能を高め、医薬品の副作用が起こりにくくなるため、かぜ薬の服用期間中には酒類（アルコール）の摂取が望ましい。
- 4 解熱鎮痛成分と酒類（アルコール）との相互作用では、アルコールの作用によって胃粘膜が荒れるため、アスピリン等による胃腸障害が増強されることがある。

問10

第1欄の記述は医薬品の使用上の注意の記載に関するものである。（ ）の中に入れるべき正しい字句は第2欄のどれか。

第1欄

医薬品の使用上の注意等において幼児という場合は、おおよその目安として（ ）未満を指すものとされている。

第2欄

1 1歳 2 3歳 3 7歳 4 12歳 5 15歳

問 11

医薬品の使用上の注意等において、高齢者のおおよその目安としての年齢区分のうち、正しいものはどれか。

- | | | | | | |
|---|-------|---|-------|---|-------|
| 1 | 60歳以上 | 2 | 65歳以上 | 3 | 70歳以上 |
| 4 | 75歳以上 | 5 | 80歳以上 | | |

問 12

高齢者が一般用医薬品を使用する場合の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 高齢者は、医薬品を少ない用量から様子を見ながら使用することが望ましいため、定められた用量の範囲以下に量を減らして使用することが必要である。
- b 高齢者は、^{のど}喉の筋力が衰えて飲食物を飲み込む力が弱まっている場合があり、内服薬を使用する際に^{のど}喉に詰まらせたり、誤嚥^{えん}（食べ物等が誤って気管に入り込むこと）を誘発しやすくなるので注意が必要である。
- c 高齢者は、持病（基礎疾患）を抱えていることが多いが、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の症状が悪化したり、治療の妨げになることはない。
- d 高齢者では、手先の衰えのため医薬品を容器や包装から取り出すことが難しい場合や、医薬品の取り違いや飲み忘れを起こしやすいなどの傾向がある。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 3 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 4 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 5 | 正 | 正 | 誤 | 正 |

問 13

妊婦、妊娠していると思われる女性及び母乳を与える女性（授乳婦）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ビタミンA含有製剤は、妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取すると胎児に先天異常を起こす危険性が高まるとされている。
- b 胎盤には、胎児の血液と母胎の血液とが混ざらない仕組み（胎盤関門）がある。
- c 妊婦が便秘薬を使用する場合、配合成分やその用量によっては流産や早産を誘発するおそれがある。
- d 母乳を与えている女性（授乳婦）が医薬品を服用しても、医薬品成分が乳汁中に移行することはない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 14

プラセボ効果に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 プラセボ効果は、医薬品を使用したこと自体による楽観的な結果への期待（暗示効果）、条件付けによる生体反応、時間経過による自然発生的な変化（自然緩解など）等が関与して生じると考えられている。
- 2 プラセボ効果は、客観的に測定可能な変化として現れることから、これを目的として医薬品を使用すべきである。
- 3 プラセボ効果とは、医薬品を使用したとき、必然的な薬理作用により生じる効果をいう。
- 4 プラセボ効果とは、医薬品を使用したとき、人体を防御するために生じる効果をいう。

問 15

医薬品の品質に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 医薬品が保管・陳列される場所は、清潔性が保たれるとともに、その品質が十分保持される環境となるよう留意される必要がある。
- 2 医薬品は、適切な保管・陳列がなされても、経時変化による品質劣化は避けられない。
- 3 一般用医薬品では、購入後すぐに使用されるとは限らないことから、外箱等に記載されている使用期限から十分な余裕をもって販売されることが重要である。
- 4 医薬品に表示されている使用期限は、開封状態で保管された場合でも品質が保持される期限である。

問 16

一般用医薬品で対処可能な症状等の範囲に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 生活習慣病の改善については、運動療法及び食事療法が基本となる。
- b 一般用医薬品は、主として軽医療の分野で使用されるものである。
- c 一般用医薬品は、疾病の初期段階、あるいは日常生活において、生活者が自らの疾病の診断、治療若しくは予防又は生活の質（QOL）の改善・向上を図ることを目的としている。
- d 一般用医薬品の販売に従事する専門家は、購入者に対して常に科学的根拠に基づいた正確な情報提供を行う必要があり、かつ、情報提供は必ず医薬品の販売に結びつくものでなければならない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 17

一般用医薬品の販売等に従事する専門家が鎮咳去痰薬の内用液剤を販売するに際し、相談を受けた場合の対応に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一度に、大量に購入しようとする客があったが、清涼飲料水代わりに常備しておくとのことだったので、特に疑問に思わず販売した。
- b 咳の具合がひどいとのことだったので、分割服用する製品であったが、定められた用量の二倍量を飲んだほうが効果が早く現れると勧めた。
- c 咳がひどい状態がずっと続いているので、常備しておきたいとのことだったが、一般用医薬品で治療するのは難しいと考え、医療機関を受診するよう勧めた。
- d 医療機関にかかっている会社の同僚の分も欲しいと希望されたが、本人以外の人の症状や他に服用している薬があるかなど不明の点があったため、本人分のみ販売した。

- 1 (a, b) 2 (b, c) 3 (c, d) 4 (a, d)

問 18

サリドマイド訴訟及び製剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a サリドマイド訴訟とは、貧血薬として販売されたサリドマイド製剤を妊娠した女性が使用したことにより、出生児に四肢欠損等の先天異常が発生したことに対する損害賠償訴訟をいう。
- b サリドマイド訴訟では、サリドマイド製剤を販売した製薬会社が被告として提訴され、国は提訴されなかった。
- c わが国では、1961年に西ドイツ企業からサリドマイド製剤による催奇形性についての警告が発せられて、直ちに販売停止及び回収措置が行われたことから、その後の被害拡大が抑えられた。
- d サリドマイドによる薬害問題は世界各国でも発生したことから、WHO加盟国を中心に市販後の副作用情報の収集体制の整備が図られることになった。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 誤 | 正 | 正 |
| 2 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 3 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 4 | 正 | 誤 | 誤 | 誤 |
| 5 | 誤 | 誤 | 誤 | 正 |

問 19

医薬品による副作用等に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a HIV訴訟とは、血友病患者が、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）が混入した原料血漿から製造された血液凝固因子製剤の投与を受けたことにより、HIVに感染したことに対し、国及び製薬企業を被告として提訴された損害賠償訴訟である。
- b クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）の原因は、細菌でもウイルスでもない蛋白質の一種のプリオンであり、脳外科手術等で用いられたヒト乾燥硬膜を介してCJDに罹患したとして訴訟が起きた。
- c 副作用被害に対する訴訟の原因となった製品で一般用医薬品として販売されたものはない。
- d 一般用医薬品の副作用等により健康被害が起こり得ることから、一般用医薬品の販売に従事する者は、医薬品の情報提供、副作用報告等を適切に行うことにより、被害拡大防止の責務の一端を担っている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 20

亜急性脊髄視神経症（スモン）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a スモン訴訟とは、整腸剤として販売されたキノホルム製剤を使用したことにより、スモンに罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- b スモン訴訟は、1971年5月に初めて提訴されたが、スモン患者の早期救済のためには、和解による解決が望ましいという基本方針に沿って、1979年9月に全面和解が成立した。
- c スモンはその症状として、初期には腹部の膨満感から激しい腹痛を伴う下痢を生じ、次第に下半身の痺れや脱力、歩行困難等が現れる。
- d スモン訴訟等を契機として、医薬品の副作用による健康被害の迅速な救済を図るため、医薬品副作用被害救済制度が創設された。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

第3章 主な医薬品とその作用

問1

かぜ薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a かぜの原因のほとんどはウイルスの感染であるが、かぜ薬は、ウイルスの増殖を抑えたり、体内から取り除くものではなく、咳^{せき}で眠れなかったり、発熱で体力を消耗しそうなきなどに、それら諸症状の緩和を図るものである。
- b エテンザミド等については、15歳未満の小児でインフルエンザにかかっているときは使用を避ける必要があるため、インフルエンザ流行期には解熱鎮痛成分がアセトアミノフェンや生薬成分のみからなる製品の選択を提案する等の対応を図ることが重要である。
- c アスピリンは、ピリン系の解熱鎮痛成分であり、ピリン系薬剤に対してアレルギー症状を起こしたことがある人への使用は避ける必要がある。
- d トラネキサム酸は、血液を固まりにくくする働きもあるため、血液凝固異常（出血傾向）の症状がある人では、出血傾向を悪化させるおそれがある。

- 1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, d) 4 (c, d)

問2

漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 小柴胡湯^{しょうさいことう}は、まれに重篤な副作用として間質性肺炎、肝機能障害を生じることが知られており、インターフェロン製剤で治療を受けている人では、間質性肺炎の副作用が現れるおそれが高まるため、使用を避ける必要がある。
- b 小青竜湯^{しょうせいりゅうとう}は、胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人では、悪心、胃部不快感等の副作用が現れやすい等、不向きとされるほか、まれに重篤な副作用として、肝機能障害、間質性肺炎を生じることがある。
- c 大黃甘草湯^{だいおうかんぞうとう}は、便秘に適すとされるが、胃腸が弱く下痢をしやすい人では、激しい腹痛を伴う下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。また、含まれるダイオウを大量に摂取すると偽アルドステロン症を起こすおそれがある。
- d 麻黄湯^{まおうとう}は、かぜのひき始めで、寒気がして発熱、頭痛があり、体のふしぶしが痛い場合のほか、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）に適すとされている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問3

総合感冒薬に配合される成分とその成分を配合する目的との組み合わせとして、正しいものはどれか。

- 1 サリチルアミド ———— 細菌の増殖を抑える。
- 2 フマル酸クレマスチン — 細菌の増殖を抑える。
- 3 塩酸プロムヘキシン ———— 痰^{たん}の切れを良くする。
- 4 グアイフェネシン ———— 発熱を鎮め、痛みを和らげる。
- 5 プロメライン ———— 咳^{せき}を抑える。

問 4

解熱鎮痛薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 解熱鎮痛薬とは、痛みや発熱の原因となった病気や外傷の治療を目的とした医薬品の総称である。
- b 月経痛や腹痛を含む痙攣性^{けいれん}の内臓痛については、一部の漢方処方製剤を除き、解熱鎮痛薬の効果は期待できない。
- c 肝臓において、解熱鎮痛成分が代謝されて生じる物質がアレルゲンとなってアレルギー性の肝障害を誘発することがある。
- d 解熱鎮痛成分は、化学的に合成された成分と生薬成分とに大別され、化学的に合成された解熱鎮痛成分に共通して、重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）、皮膚粘膜眼症候群等を生じることがある。

- 1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, d) 4 (c, d)

問 5

痛みや発熱が起こる仕組みや解熱鎮痛薬の働きに関する以下の記述について、() の中に入れるべき正しい字句はどれか。なお、() 内は、すべて同じ字句が入る。

() は、ホルモンに類似した働きをする物質で、体の各部位で発生した痛みが脳に伝わる際に、その痛みの信号を増幅させる。また、脳の下部にある体温を調節する部位に作用して、通常よりも高く体温が調節されるようにするほか、胃酸の分泌を調節する働きや、胃粘膜の保護に寄与する働きがある。

解熱鎮痛成分であるアスピリン等は、() の産生を抑えることにより作用を示すため、副作用として胃腸障害等が起こることがある。

- 1 セロトニン 2 ヒスタミン 3 メチオニン
4 アドレナリン 5 プロスタグランジン

問6

催眠鎮静薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 小児鎮静薬は、小児における虚弱体質、消化不良などの改善を目的とする医薬品であり、鎮静作用のほか、血液の循環を促す作用があるとされる生薬成分を中心に配合されている。
- b 妊娠中にしばしば生じる睡眠障害については、ホルモンのバランスの変化等によるものであり、睡眠改善薬の適用対象となる。
- c ブロムワレリル尿素、アリルイソプロピルアセチル尿素は、いずれも脳の興奮を抑え、痛み等を感じる感覚を鈍くする作用を示し、かぜ薬や解熱鎮痛薬などに補助成分として配合されることが多い。
- d 神経の興奮・緊張を和らげる作用を期待してチョウトウコウ、サンソウニン等の生薬成分を組み合わせる製品があり、これらの生薬成分からなる鎮静薬は、複数の鎮静薬の併用や、長期連用が可能である。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問7

カフェインに関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 カフェインは、胃液の分泌を抑制する作用があるため、胃腸薬に補助成分として配合されることがある。
- 2 カフェインを過剰摂取すると、脳が過剰に興奮し、副作用として振戦（震え）、めまい、頭痛等を生じることがある。
- 3 カフェインは、腎臓での水分の再吸収を促進し、尿量の減少をもたらす。
- 4 かぜ薬等において、眠気を促す成分が配合されている場合であっても、カフェインが配合されていれば、眠気を生じることはない。

問 8

鎮暈薬（乗物酔い防止薬）に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 乗物酔い防止薬に配合されている抗ヒスタミン成分、抗コリン成分には、いずれも眠気を促す作用があり、乗物の運転操作をするときには、乗物酔い防止薬の使用は控える必要がある。
- b ジメンヒドリナート等の抗ヒスタミン成分は、延髄にある嘔吐中枢への刺激や内耳の前庭における自律神経反射を抑える作用を示す。
- c パモ酸ピルピニウム等の抗コリン成分は、脳に軽い興奮を起こさせて平衡感覚の混乱によるめまいを軽減させる作用を示す。
- d 乗物酔いの発現には、不安や緊張などの心理的な要因による影響も大きく、それらを和らげることを目的として、ジプロフィリンが配合されている。

- 1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, d) 4 (c, d)

問 9

鎮咳去痰薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 鎮咳去痰薬には、咳を鎮める成分、発熱を鎮める成分、気管支を拡張する成分、痰の切れを良くする成分、気道の炎症を和らげる成分等を組み合わせて配合されている。
- b 咳を抑えることを目的とする成分のうち、塩酸ノスカピン、臭化水素酸デキストロメトルファン、ヒベンズ酸チペピジンは、モルヒネと同じ基本構造を持ち、依存性がある成分であり、麻薬性鎮咳成分と呼ばれる。
- c 塩酸メチルエフェドリン、メチルエフェドリンサッカリン塩等のアドレナリン作動成分は、気管支を拡張させる作用を示し、呼吸を楽にして咳や喘息の症状を鎮めることを目的として用いられる。
- d 咳や痰、息切れ等の症状が長期間に渡っている場合には、慢性気管支炎や肺気腫などの慢性閉塞性肺疾患（COPD）の可能性があり、医師の診療を受けることが望ましい。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 10

咳^{せき}が生じる仕組みに関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

気道に吸い込まれた埃^{ほこり}や塵^{ちり}などの異物が気道粘膜の(a)運動によって排出されないとき、飲食物等が誤って気管に入ってしまったとき、又は、冷たい空気や刺激性のある蒸気などを吸い込んだときなど、それらを排除しようとして反射的に咳^{せき}が出る。このように咳^{せき}は、気管や気管支に何らかの異変が起こったときに、その刺激が(b)神経系に伝わり、(c)にある咳嗽中枢^{がいそう}の働きによって引き起こされる反応である。

	a	b	c
1	呼吸	末梢	延髄 ^{ずい}
2	呼吸	末梢	小脳
3	線毛	末梢	小脳
4	線毛	中枢	小脳
5	線毛	中枢	延髄 ^{ずい}

問 11

次の表は、ある鎮咳去痰薬^{がいたん}に含まれる成分の一覧である。

成人1日量 (60mL)	
リン酸コデイン	50 mg
塩酸メチルエフェドリン	75 mg
塩化リゾチーム	60 mg (力価)
マレイン酸クロルフェニラミン	12 mg
セネガ流エキス	1500 mg

この鎮咳去痰薬^{がいたん}を販売するにあたり、注意すべき事項の一つとして、第1欄のことがあげられる。第1欄の記述に該当する成分として正しいものは第2欄のどれか。

第1欄

まれに、ショック（アナフィラキシー）や皮膚粘膜眼症候群等の重篤な副作用が現れることがあるほか、鶏卵アレルギーのある人の使用は避ける必要がある。また、乳児において、初めて摂取したときに、ショック（アナフィラキシー）が現れたとの報告があるため、乳児に服用させたあとはしばらくの間、容態をよく観察することが重要である。

第2欄

1	リン酸コデイン	2	塩酸メチルエフェドリン	3	塩化リゾチーム
4	セネガ流エキス	5	マレイン酸クロルフェニラミン		

問 12

鎮咳去痰薬に配合される成分に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、3箇所の(b)内はすべて同じ字句が入る。

口腔咽喉薬の効果を兼ねた(a)やドロップ剤では、塩化セチルピリジニウム等の(b)が配合されている場合がある。基本的に他の配合成分は腸で吸収され、循環血液中に入って薬効をもたらすのに対し、(b)は口腔内及び咽頭部において局所的に作用するため、(b)が配合された口腔咽喉薬を噛み砕いて飲み込んでしまうと効果は期待できない。

	a	b
1	トローチ剤	殺菌消毒成分
2	トローチ剤	抗炎症成分
3	シロップ剤	殺菌消毒成分
4	シロップ剤	抗炎症成分
5	チュアブル錠	去痰成分

問 13

次の1～5で示される疾患等のうち、カルシウム、マグネシウム、アルミニウム等の無機塩類を含有する胃腸薬の使用上の注意として、使用する前に、その適否について医師等に相談がなされることが望ましいとされているものはどれか。

- | | | | | | | | |
|---|----------|---|-----|---|-----|---|-------|
| 1 | 精神神経障害 | 2 | 腎臓病 | 3 | 肝臓病 | 4 | 呼吸器疾患 |
| 5 | 甲状腺機能の異常 | | | | | | |

問 14

胃腸に作用する薬に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 健胃薬、消化薬及び整腸薬の中には、医薬部外品として製造販売されている製品もあるが、その場合は、配合できる成分やその上限量、効能・効果の範囲が限定されている。
- 2 制酸成分を主体とする胃腸薬は、酸度の高い食品と一緒に使用すると胃酸に対する中和作用が増強されることが考えられる。
- 3 制酸薬は、胃内容物の刺激によって促進される胃液分泌から胃粘膜を保護することを目的としており、暴飲暴食による胸やけ、吐き気等の症状を予防するために食前に服用するものが多い。
- 4 弱った胃の働きを高めることを目的として、オウレン、センブリ等の生薬成分が配合されている場合があるが、これらの生薬成分が配合されている医薬品を服用する際には、特有の味や香りにより、服用しにくい場合があるため、オブラートで包んで味や香りの遮蔽^{へい}をする等の工夫も必要である。

問 15

ある店舗で勤務する登録販売者が、来店した女性から相談を受けた。この女性からの相談に対して、登録販売者が説明した内容として正しいものはどれか。

- ・女性は8か月の男児の母親であった。
- ・女性及び男児ともに便秘に悩んでおり、便秘薬を購入するために来店した。
- ・女性は男児に対して授乳をしている。

- 1 便秘については、食生活などの生活習慣の改善が図られることが重要であり、体質改善のため、母子ともにダイオウを含む漢方製剤を継続的に使用するのがよいと説明した。
- 2 ヒマシ油は、弱い瀉^{しゃ}下作用しかないため、男児の使用は可能であるが、母親では効果がないと説明した。
- 3 男児に対してマルツエキスが使用できるが、水分不足による便秘の場合はマルツエキスの効果は期待できないので注意するよう説明した。
- 4 母親がセンナを配合する医薬品を使用すると母乳が出にくくなるので、使わない方がよいと説明した。

問 16

腸の薬（整腸薬、止瀉薬、瀉下薬）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 急な胃腸の痛みは、主として胃腸の過剰な動き（痙攣）によって生じるものであるため、胃腸鎮痛鎮痙薬として、消化管の運動を抑える成分（抗コリン成分）が用いられる。
- b 次没食子酸ピスマス等のピスマスを含む収斂成分については、海外において長期連用した場合に精神神経症状が現れたとの報告があり、1週間以上継続して使用しないこととされている。
- c 抗コリン作用を示す生薬成分としては、ロートエキス（ロートコンの抽出物）が用いられることも多く、ロートエキスが配合された医薬品は、生薬製剤であることから、妊婦や授乳婦に対して適するとされている。
- d ピコスルファートナトリウムを配合する医薬品と生菌製剤の整腸薬を併用すると、整腸薬によってピコスルファートナトリウムの分解が抑制されるため、作用が強く現われることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 17

消化器官用薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 浣腸薬は、便秘の場合に排便を促すことを目的として、直腸内に適用される医薬品であるため、妊婦又は妊娠していると思われる女性の使用に適している。
- b 駆虫薬は、その有効成分が腸管内において薬効をもたらす局所作用を目的とする医薬品であり、複数の駆虫薬を併用すると駆虫効果が高まる。
- c タンニン酸アルブミンに含まれるアルブミンは、卵に含まれる蛋白質（カゼイン）から精製された成分であるため、卵にアレルギーがある人では使用を避ける必要がある。
- d 細菌性の下痢や食中毒のときに収斂成分を主体とする止瀉薬を使用すると、かえって状態を悪化させるおそれがあり、急性の激しい下痢又は腹痛・吐き気等を伴う人では、安易な使用を避ける事が望ましい。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 18

解熱鎮痛薬、強心薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ジャコウは、ヒキガエル科のシナヒキガエル又はヘリグロヒキガエルの毒腺の分泌物を集めたもので、微量で強い強心作用を示し、1日用量中ジャコウ5mgを超えて含有する医薬品は劇薬に指定されている。
- b ゴオウは、ウシ科のウシの胆嚢中に生じた結石を用いた生薬で、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下等の作用があるとされる。
- c ロクジョウは、クサリヘビ科のママシの皮及び内臓を取り除いたもの又は黒焼きにした生薬で、強心、血行促進、強壯等の作用を期待して用いられる。
- d ジリュウは、ツリミズ科のカッシュクツリミズ又はその近縁種を用いた動物性生薬で、古くから「熱さまし」として用いられており、ジリュウのエキスを製剤化した製品は、「感冒時の解熱」が効能・効果となっている。

- 1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, d) 4 (c, d)

問 19

コレステロールに関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、2箇所ずつの(a)、(b)内には、どちらもそれぞれ同じ字句が入る。

(a)は、コレステロールを肝臓から末梢組織へと運び、(b)は、末梢組織のコレステロールを取り込んで肝臓へと運ぶため、血液中の(a)が多く、(b)が少ないと、コレステロールの運搬が末梢組織側に偏ってその蓄積を招き、生活習慣病につながる危険性が高くなる。

	a	b
1	中性脂肪	低密度リポたん蛋白質 (LDL)
2	低密度リポたん蛋白質 (LDL)	高密度リポたん蛋白質 (HDL)
3	低密度リポたん蛋白質 (LDL)	中性脂肪
4	高密度リポたん蛋白質 (HDL)	低密度リポたん蛋白質 (LDL)
5	高密度リポたん蛋白質 (HDL)	中性脂肪

問 20

貧血に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 鉄分の摂取不足を生じると、初期にはヘモグロビン量が減少するが、貯蔵鉄や血清鉄の量は変化しないため、ただちに貧血の症状は現れない。
- 2 鉄製剤を服用すると、便が赤くなることがあるが、これは使用の中止を要する副作用等の異常ではないが、服用前から便が赤い場合は消化管内で出血している場合もあるため、服用前の便の状況との対比が必要である。
- 3 鉄分の吸収は空腹時のほうが高いとされているが、鉄製剤の主な副作用として胃腸障害が知られており、消化器系への副作用を軽減するためには、食後に服用することが望ましい。
- 4 月経過多の女性においては、貧血症状が起きやすいため、貧血の症状がみられる以前から予防的に貧血用薬を使用する必要がある。

問 21

痔疾用薬に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、2箇所の (a) 内はどちらも同じ字句が入る。

内用痔疾用薬に用いられる乙字湯と芎帰膠艾湯は、その構成生薬として (a) を含む。(a) は他の医薬品や食品から摂取する可能性が多いことから、購入者に対して総量に注意するように促すことが重要である。(b) は便秘しやすい人のいぼ痔等に適するが、まれな副作用として、肝機能障害や間質性肺炎を生じることがある。

- | | a | b |
|---|------|-------|
| 1 | センナ | 乙字湯 |
| 2 | カンゾウ | 乙字湯 |
| 3 | ダイオウ | 乙字湯 |
| 4 | センナ | 芎帰膠艾湯 |
| 5 | カンゾウ | 芎帰膠艾湯 |

問 22

次の表は、ある外用痔疾用薬に含まれている成分表の一部である。

1個 1.65g 中	
酢酸ヒドロコルチゾン	5 mg
リドカイン	60 mg
マレイン酸クロルフェニラミン	4 mg
アラントイン	20 mg
酢酸トコフェロール	60 mg
塩酸クロルヘキシジン	5 mg

この医薬品に含まれる成分とその成分を配合する目的との関係について、正しい組み合わせはどれか。

- | | | |
|---|----------------|-----------|
| a | 酢酸ヒドロコルチゾン | 炎症を和らげる。 |
| b | リドカイン | 止血を目的とする。 |
| c | マレイン酸クロルフェニラミン | 痒みを和らげる。 |
| d | アラントイン | 抗菌を目的とする。 |

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 23

50 歳代の女性から、以下のような症状の相談を受けた。

- ・体力は弱く、手足が冷えやすい。
- ・貧血気味で、よく動悸や息切れを感じる。
- ・寝つきが悪く、眠りが浅い。
- ・集中力が低下している。
- ・このごろ神経質になったと感じる。

この女性に適する漢方処方製剤はどれか。ただし、まれに重篤な副作用として、間質性肺炎、肝機能障害を生じることがある製剤なので、使用にあたっては注意を促すことが必要である。

- | | | | | | |
|---|---------------------|---|--------------------------|---|---------------------|
| 1 | とうかくじょうきとう
桃核承気湯 | 2 | さいこけいしかんきょうとう
柴胡桂枝乾姜湯 | 3 | けいしぶくりょうがん
桂枝茯苓丸 |
| 4 | うんけいとう
温経湯 | 5 | まおうとう
麻黄湯 | | |

問 24

鼻炎用内服薬に配合される塩酸プソイドエフェドリンに関する記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

塩酸プソイドエフェドリンは、他のアドレナリン作動成分に比べて (a) 神経系に対する作用が強く、副作用として不眠や神経過敏が現れることがある。

また、(b) 神経系に対する (c) 作用によって心臓血管系や肝臓でのエネルギー代謝等への影響も生じやすい。

- | | a | b | c |
|---|----|-----|----|
| 1 | 中枢 | 交感 | 刺激 |
| 2 | 中枢 | 副交感 | 刺激 |
| 3 | 末梢 | 副交感 | 刺激 |
| 4 | 中枢 | 交感 | 抑制 |
| 5 | 末梢 | 交感 | 抑制 |

問 25

次の表は、ある鼻炎用内服薬に含まれている成分の一覧である。

2カプセル中	
マレイン酸クロルフェニラミン	4 mg
ペラドンナ総アルカロイド	0.2mg
塩酸プソイドエフェドリン	60 mg
グリチルリチン酸	22.5mg
無水カフェイン	50 mg

この鼻炎用内服薬に含まれる成分と主な副作用に関する記述との関係について、正しい組み合わせはどれか。

- a マレイン酸クロルフェニラミン ——— 眠気や注意力の低下が起こりやすくなる。
- b ペラドンナ総アルカロイド ——— 胃酸過多や胸やけが起こりやすくなる。
- c 塩酸プソイドエフェドリン ——— 高血圧の治療のためモノアミン酸化酵素阻害剤により治療を受けている場合は、本剤の副作用が現れやすくなる恐れがある。
- d グリチルリチン酸 ——— 大量に摂取すると偽アルドステロン症を生じる恐れがある。

- 1 (a, b) 2 (b, c) 3 (c, d) 4 (a, d)

問 26

鼻に用いる医薬品に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 鼻粘膜を清潔に保ち、細菌による二次感染を防止することを目的として配合される塩化ベンゼトニウムは、陽性界面活性成分であり、黄色ブドウ球菌、溶血連鎖球菌やウイルス等に対する殺菌消毒作用を示す。
- b 点鼻薬は局所（鼻腔内）に適用されるものであるが、成分が鼻粘膜を通っている血管から吸収されて循環血液中に入りやすく、全身的な影響を生じることがある。
- c 一般用医薬品の鼻炎用点鼻薬の対応範囲は、急性又はアレルギー性の鼻炎及びそれに伴う副鼻腔炎であり、蓄膿症などの慢性のものは対象となっていない。
- d 点鼻薬に配合されるアドレナリン作動成分は、鎮咳去痰薬に配合されているほか、外用痔疾用薬に殺菌消毒成分として配合されている場合があり、これらの医薬品との併用がなされた場合、効き目が強すぎたり、副作用が現れやすくなるおそれがある。

- 1 (a, b) 2 (b, c) 3 (c, d) 4 (a, d)

問 27

眼科用薬に配合される成分に関する以下の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、3箇所の(a)内、2箇所の(b)内はどちらもそれぞれ同じ字句が入る。

自律神経系の伝達物質である(a)は、水晶体の周りを囲んでいる毛様体に作用して、目の調節機能に関与している。目を酷使すると、(a)を分解する酵素である(b)の働きが活発になり、目の調節機能が低下し、目の疲れやかすみといった症状を生じる。(c)は、(b)の働きを抑える作用を示し、毛様体における(a)の働きを助けることで、目の調節機能を改善する効果を目的として用いられる。

	a	b	c
1	アセチルコリン	コリンエステラーゼ	メチル硫酸ネオスチグミン
2	アドレナリン	モノアミン酸化酵素	メチル硫酸ネオスチグミン
3	ノルアドレナリン	モノアミン酸化酵素	塩酸メチルエフェドリン
4	アセチルコリン	モノアミン酸化酵素	塩酸ジフェンヒドラミン
5	アドレナリン	コリンエステラーゼ	塩酸メチルエフェドリン

問 28

みずむし等の治療に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一般的に、じゅくじゅくと湿潤している患部には、液剤が適するとされる。軟膏及びクリームは有効成分の浸透性が高く、患部に対する刺激が強い。皮膚が厚く角質化している部分には、軟膏又はクリームが適している。
- b 湿疹とみずむし等の初期症状は類似していることが多く、湿疹に抗真菌作用を有する成分を使用すると、かえって湿疹の悪化を招くことがある。
- c 硝酸オキシコナゾール、塩酸ネチコナゾール等は、イミダゾール系の抗真菌薬と呼ばれ、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げたり、細胞膜の透過性を変化させることにより、その増殖を抑える。
- d みずむし等の基礎的なケアとして、足(特に、指の間)を毎日石鹼で洗った後、できるだけ保湿した状態で保つことにより、みずむしが発生しにくい環境作りにつながる。

- 1 (a, b) 2 (b, c) 3 (c, d) 4 (a, d)

問 29

外皮用薬を購入する者に対する受診勧奨に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 一般用医薬品の使用による対処は、^{かゆ}痒みや痛み等の症状を一時的に抑える対症療法であるが、5～6日間使用して症状が治まらない場合には、医師の診療を受けることが望ましい。
- 2 痛みが著しい、又は長引く、^{きゅう}脱臼や骨折が疑われる場合には、一般用医薬品を継続的に使用するのではなく、医療機関（整形外科又は外科）を受診することが望ましい。
- 3 慢性の^{しん}湿疹や皮膚炎、又は皮膚症状が広範囲に渡って生じているような場合には、感染症や内臓疾患、又は免疫機能の異常等による可能性もあり、医療機関の受診が望ましい。
- 4 アトピー性皮膚炎は、症状の初期の間は一般用医薬品の使用によって完治が可能であるが、2週間使用して症状が改善しない場合には、医師の診療を受けることが望ましい。

問 30

にきび・吹き出物等の治療に関する以下の記述について、()の中に入れるべき正しい字句はどれか。

にきび、吹き出物は、最も一般的に生じる化膿^{のう}性皮膚疾患である。
化膿^{のう}性皮膚疾患用薬を漫然と使用していると、()であるにきび桿^{かん}菌が静菌化される一方で、化膿^{のう}菌である黄色ブドウ球菌等は耐性を獲得するおそれがある。

- 1 皮膚常在菌 2 連鎖球菌 3 乳酸菌 4 皮膚糸状菌
- 5 ウイルス

問 31

毛髪用薬に配合される成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 塩化カルプロニウムは、末梢組織（適用局所）において、頭皮の血管を拡張、毛根への血行を促すことによる発毛効果を期待して用いられる。
- b 塩化カルプロニウムの副作用として、局所又は全身性の発汗、それに伴う寒気、震え、吐き気が現れることがある。
- c 脱毛は男性ホルモンの働きが過少であることも一因とされているため、男性ホルモン成分の一種である安息香酸エストラジオールが配合されている場合がある。
- d 生薬成分であるカシュウは、タデ科ツルドクダミの塊根を用いた生薬で、頭皮における脂質代謝を高めて、余分な皮脂を取り除く作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	正	正	誤
5	正	正	正	正

問 32

歯槽膿漏薬に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 ヒノキチオールやチョウジ油は、殺菌消毒作用のほか、抗炎症作用なども期待して配合されている場合がある。
- 2 カルバゾクロムは、歯周組織の血行を促す作用を期待して配合されている場合がある。
- 3 銅クロロフィリンナトリウムは、主に炎症を起こした歯周組織の修復を促す作用を期待している。
- 4 ビタミンCは、毛細血管を強化して炎症による腫れや出血を抑える効果を期待して配合されている場合がある。

問 33

禁煙補助剤の使用に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

禁煙に伴うニコチン離脱症状は、通常、禁煙開始から(a)の間に起きることが多い。
禁煙補助剤は長期間に渡って使用されるべきものでなく、使用期間は3ヶ月を目途とし、(b)を超える使用は避けることとされている。

	a	b
1	1～2週間	2年
2	1ヶ月	6ヶ月
3	1ヶ月	2年
4	1～2週間	6ヶ月
5	1ヶ月	1年

問 34

滋養強壯保健薬に配合される成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a システインは、髪や爪、肌などに存在するアミノ酸の一種で、皮膚におけるメラニンの生成を抑える働きや、アセトアルデヒドと直接反応して代謝を促す働きがあるとされる。
- b カルシウムを含む成分は、胃腸薬等、カルシウムの補給を目的としない医薬品においても配合されているため、カルシウム主薬製剤との併用によりカルシウムの過剰摂取を生じることのないよう留意される必要がある。
- c グルクロノラクトンは、肝臓の働きを助け、肝血流を促進する働きがあり、全身倦怠感や疲労時の栄養補給を目的として配合されている場合がある。
- d ヘスペリジンは、ビタミン様物質であり、ビタミンAの吸収を助ける作用があるとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	正	正	誤

問 35

次の滋養強壯保健薬に配合されるビタミン成分に関する記述について、()の中に入るべき正しい字句はどれか。なお、()内はすべて同じ字句が入る。

()は、腸管でのカルシウム吸収及び尿細管でのカルシウム再吸収を促して、骨の形成を助ける栄養素である。

()主薬製剤は、エルゴカルシフェロール又はコレカルシフェロールが主薬として配合された製剤で、骨歯の発育不良、くる病の予防、また妊娠・授乳期、発育期、老年期の()の補給に用いられる。

- | | | | | | |
|---|-------|---|--------------------|---|-------|
| 1 | ビタミンA | 2 | ビタミンB ₁ | 3 | ビタミンC |
| 4 | ビタミンD | 5 | ビタミンE | | |

問 36

漢方処方製剤・生薬製剤に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ^{ぼういおうぎとう}防己黄耆湯は、色白で疲れやすく、汗をかきやすい傾向のある人における、肥満症、関節痛、むくみの症状に適すとされる。
- b ^{おうれんげどくとう}黄連解毒湯は、比較的体の虚弱な人で、のぼせぎみで、いらいらする傾向のある人における、鼻出血、不眠症に適すとされる。
- c カッコンは、マメ科のクズの根を用いた生薬で、解熱、鎮^{けい}痙等の作用を期待して用いられる。
- d ブクリョウは、モクセイ科のレンギョウの果実を用いた生薬で、鎮痛、抗菌等の作用を期待して用いられる。

- | | | | | | | | |
|---|--------|---|--------|---|--------|---|--------|
| 1 | (a, b) | 2 | (a, c) | 3 | (b, d) | 4 | (c, d) |
|---|--------|---|--------|---|--------|---|--------|

問 37

第1欄の記述は、ある生薬成分に関するものである。第1欄の記述に該当する生薬として正しいものは第2欄のどれか。

第1欄

キンポウゲ科のハナトリカブトの塊根であり、心筋の収縮力を高めて血液循環を改善する作用を持つ。血液循環が高まることによる利尿作用を示すほか、鎮痛作用を示す。

第2欄

- 1 サイコ 2 ブシ 3 ショウマ 4 カンゾウ
5 ボウフウ

問 38

衛生害虫及びその防除を目的とする殺虫剤・忌避剤に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 疾病を媒介したり、物を汚染するなどして、保健衛生上の害を及ぼす昆虫等を衛生害虫という。ハエ、蚊、ゴキブリ、シラミ、ツツガムシは衛生害虫である。
- b 屋内塵性ダニであるヒョウヒダニ類は、ツメダニ類と異なり、ヒトを刺すことはないため、ダニの糞や死骸がアレルギーとはならない。
- c ピレスロイド系殺虫成分のフェントリンは、除虫菊の成分から開発された成分で、自然界への残留性が高い。
- d ディートを含有する忌避剤は、生後6ヶ月未満の乳児への使用を避けることとされている。

- 1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、d)

問 39

第1欄の記述は、ある消毒薬の説明である。第1欄の記述に該当する消毒薬として正しいものは第2欄のどれか。

第1欄

結核菌を含む一般細菌類、真菌類に対して比較的広い殺菌消毒作用を示すが、ウイルスに対する殺菌消毒作用はない。

原液を水で希釈して用いられるが、刺激性が強いため、原液が直接皮膚に付着しないようにする必要がある。付着した場合には直ちに石鹼水と水で洗い流す。

第2欄

- | | | | | | |
|---|------------|---|------------------|---|------|
| 1 | 次亜塩素酸ナトリウム | 2 | 消毒用エタノール | 3 | サラシ粉 |
| 4 | クレゾール石鹼 | 5 | ジクロルイソシアヌル酸ナトリウム | | |

問 40

妊娠検査薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 妊娠検査薬は、確実な検査結果を得るために冷蔵又は冷凍保管が適している。
- b 妊娠検査薬は、妊娠の早期判定の補助とするものであるが、ホルモン剤を使用している人では、妊娠していなくても検査結果が陽性となることがある。
- c 妊娠が成立すると、体内でヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）が分泌される。妊娠検査薬は、尿中のhCGの有無を調べるものである。
- d 一般的な妊娠検査薬は、月経予定日の概ね1週間前の検査が推奨されている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

◎この問題用紙は、指示があるまで開いてはいけません。
受験者は必ず、次の注意事項を試験開始前によく読んでください。

注 意 事 項

- 1 問題用紙は、前半、後半ごとに1冊につづってあります。
- 2 問題の内容についての質問には答えません。
- 3 用件のあるときは、だまって手をあげ、係員の指示を受けてください。
- 4 解答用紙は、折ったり曲げたりしないでください。
- 5 試験開始の合図とともに、受験番号を解答用紙の決められた欄に正しく記入した上で、各位の数字の 欄に、 とマークすること。
なお、受験番号は受験票に記載されている5ケタの番号です。
- 6 試験問題は、前半が第1章（問1から問20まで）及び第3章（問1から問40まで）、後半が第2章（問1から問20まで）、第4章（問1から問20まで）及び第5章（問1から問20まで）の問題です。
- 7 各問題には、1から4までの四つの選択肢又は1から5までの五つの選択肢が書いてあります。そのうち、問題の解答として最もふさわしいと思われる番号を一つ選び、解答用紙の同じ番号の 欄に、解答例にならい、 とマークすること。
なお、一つの問題に二つ以上マークしたものは、無効となり正解とみなしません。

(解答例)

問 1 次のうち、静岡県の県庁所在地として、正しいものはどれか。

- (1) 沼津市
- (2) 静岡市
- (3) 浜松市
- (4) 富士市

(解答用紙)

問題番号		解 答 番 号				
	問 1	<input type="text"/>	<input checked="" type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	問 2	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

- 8 解答のマークは鉛筆（HB以上の濃い鉛筆）で濃く、はっきりとマークすること。
- 9 解答をまちがえたときは、消しゴムで「あとかた」のないようにきれいに消し、問題の解答として最もふさわしいと思われる番号の 欄にマークしなおすこと。
- 10 この問題用紙には、表紙に受験番号を記入してください。
- 11 問題用紙は、試験終了（17時30分予定）後に持ち帰りすることができます。ただし、試験時間内の途中退出者が問題用紙の持ち帰りを希望する場合は、試験終了後、席に取りに来てください。
- 12 問題用紙の持ち帰りをしない場合には、問題用紙の表紙に×印をつけて退出してください。
- 13 最後に、受験番号が解答用紙に正しくマークされているか、いま一度受験票と対照して確認してください。